

遺書

私が今死ぬ事は余り有難過ぎて勿体
ない。何故なら多くの人々から愛
されただけで何一つお報いがお来ておな
いから。

私の只一つ心残りは老田と去を送る
宝兄様おえを慰め上げない願だ
然し弱いついで、永々生きて多くの人の
一害世何になつてはすまぬといふ。左お祥し
がある今尸居されたり私自刃、其上有難
い。ゆへはない

2

おちやん三十有余年の、永い年月弱い私を
いたわつて、大層よく、私のため、あの置位
も捨て、内地に帰るからは、つらい色々な
事件を私と共に堪へて忍んで下さつた。いつもし
いそおに私はなほ感謝をいしおまつた
終始私の為にはよくまであり、教師であり
子うをためはあつてもないよいおな様！
有難うございました。永々お厄介であぐ
いすた、沖様の祝福が豊々沢山々とお報
いしつきます様に、私の居ります処へどうぞ
お越 せしませば又逢ふ日とさよなら

母上様弱い子は一番の親不孝者。何
 母上をよろしくさせる様なうとせずお先
 にもあります。さうね々々の親不孝を
 どうぞお許し下さいませ
 お体をお大事に。私が折るしまうたう
 どうぞ松山へお越しなうて安楽な日
 を過すべく下さい
 を々とは心配とは厄介なうなうた
 有難うございます。

宝雲兄さん 姉さん！私のあめは小さい時
 からやさしい良いい兄さん。友達の誰かが持
 つておないうち。私に時計を買って下さうた
 皆さんのあめは、いつても立派な後継
 あなたの方おえのお陰で私の娘達には
 幸福な嫁に行きます
 何一つは思返りしませずお先（お先）
 ますどうぞお体をお大事に。淋しくなうた
 母上のうきようくお願ひ致します
 兄さんのせんそく。姉さんの様。私の体へ集り
 ううれ。 さうなうた

晴一様、あなたは何と云ふやういふ心子、勿体ない程私を大層うきうきと下さうた、私はどんなに心でよろこんでゐるか。

あなたは謹^{こころ}むいし親切だから、これーいとうきをお分村^{むら}達^{たち}を大層うきうきと下さう孝行すれど、神村の祝福がいよくかへられますから。

そして松山の叔父さん達をも驚^{おどろ}かして下さう、そして上げて下さうお願ひです。

聖書をよく読んで下さう、あれは人生行路^{ぎやうじよ}の燈^{あかり}ですから。アブラハムの様な人になつて下さう

逆^{さか}も何人^{なんにん}と云ふても、あなたより責任は大きい、あなたの心持ち一つで、全軍^{せんぐん}（父、丈、祖母、松山、姉妹達）の各家庭^{かくけいたい}、其他^{その他}凡ての關係者^{かんけいしや}を左右^{さうぶ}する、そして新^{あらた}れ！、一層^{いっしやう}聖書^{せいしよ}を讀^よめ、晴一様と協力^{きやうりき}し、頂^{いただき}き、一門^{いもん}の指導者^{しうどしや}となれ、二人^{ふにん}修業^{しゆぎやう}せよ、うきき人^{うききひと}格^{かく}を造^{つく}れ、全軍の母となれ、自己に死に切^きれ、けず思^{おも}ひを消^けし、心^{こころ}を清^{きよ}めよ、全軍に社会に奉仕^{ほうし}せよ。

祈^{いの}り深^{ふか}きあれ、神の助^{すけ}があれ、世に不可能は絶對^{ぜつたい}あり得^えない晴一様と逆^{さか}ふへ詩篇^{しへん}一篇^{いっぺん}を贈^くる

坂田生子郎様、公人としてのあなたには申し分ない
 でせう、どうも健康に注意して、聖書的に
 円熟した人格者となつて下さい
 幸ふあなたは、大分母のいざなひがたま
 たのを、よい、いよく、よく、喜ばせであり、賢い
 母となれ。兄弟、いつ迄も仲よくせよ
 一人で、あかまき者がおては、全軍の凱
 とたる。一人々々が、申すり合ふ心、姉さんを
 いたわる心が、なけれぬ、めめだ

二人、コリント前 十三、立軍を、贈る

大は、あなたのやさしい性と、純な愛が、うまい
 夜、全龍の神が、視て、おらう、やる、事を、覚え、て
 歎くは、モーセの、様な、人物、になつて、下さい
 愛ふ、あなたは、もつと、信仰を、生活、せね、を
 たり、ません、あなた、は、ま、お、質、が、よい、の、だから、
 努力、すれ、だ、よい、人、にな、れる、と、思、ふ、二、す、の
 る、と、め、も、な、り、様、な、子、は、お、の、娘、に、な、い
 は、ず、だ、東、な、る、と、云、ふ、は、誰、の、場合、
 だ、と、い、う、だ、お、の、お、の、お、の、お、の、
 目的、が、何、で、ある、か、を、常、に、思、へ

勝者即抹殺。々々として努力の人。どうもや書
 てもよく讀んで人生の歩流々をききて下さい
 搏子人生に艱難がたつた。う。苦悶の多い
 海水の棲こ人。お。厭うのをすよ。よく活潑に
 て心の腐った人。お。を見てごらん。お。かき。を
 しくした果と云ふのが多い。
 一つでもあつて居る。お。人生行路は平旦不
 ない。神々祈つていつても助けて居る。な。か。う
 人生の荒波と戦ふ行け。お。お。う。居。い
 て。お。を。々々。な。良。性。を。活。用。せ。よ。

詩篇八十四篇を贈る

ア、凡ての私の為なる子等よ、あなた達は
 お。く。る。より。お。は。る。は。幸。なり。と。教。育。さ。れ。て
 来た。今皆其實行者たるか。良く自問
 自答せよ。

受けろ。受けろ。う。の。く。欲。求。する人。人。を。で
 是程なきけない者はない。こ。も。か。わ。ら。ず。
 寧ろ多い。の。敬。慕。く。受けろ。な。人。精神
 には人の好。意思。同情。愛。理解。数。一。揃
 げれ。を。限。り。な。い。物質的に近づけは
 法外多い。

よ。め。い。目。し。考。へ。て。下。さい。受けろ。の。人。の。心

林いね、さういね、心がいかに。いつでも
不平と不満が、つきまぢう、そんな子は和
の子供の仲間をないから。各々自らに厳密
に自問自答を繰り返す。

軟ける心、生へる心。はるるいね、さうい
心はいつても。よろこびと感謝、満されてみ
る。愛する子うよ、独りでも受けあひな
る。絶對。然し神より恵ひを信じて、うら
いものを感謝し、受けあひなす。

軟ける心、生へる心。一人残らず、實行者
たれ。

に

高慢、さぶるいする程いやな言葉だ、あなた
達も高慢な多くの人の接して、まあ其、畢竟先
をよ。ちよぎる。やりあひを接する。せう
自分は高慢ぢやないと思ひ、みえし。いよつと
さうさうさ。場合がある。人は何かしら
法則を持ち易い。其さきから高ぶりが、這入
こむものだ。立派な修養の家。中々、其家
宗教家とてさへ。しくいつた多くの人があ
る。気をつけないと、おず々々の内、高慢になり
ます。それから、絶對に實行しなはな
ない。それは、わかると。いぢある。

それはちよいとやそゝるまゝと思ふ人はないか。サ
 くて何い。凡そ社会生活でも、家庭の共同生活
 でも。一人で止を實行されたら、たまらな
 自分も不快なわけだ。すめばうまいが、なか
 そろは行かぬ

わがまゝと、いぢわる、絶対、二重禁止。た
 の最後の願だ

神も人心をさぐりむと聖者は祈つた

愛する子、うよあ、の言葉が、あ、の祈り
 であれ。この計は毎日、う、あ、合はされる
 しく生きるため、は毎日、聖書を、合、行

かねをなうない

世父母を敬へとは、牛古を母、く、神の命令
 だ、父母を敬ふ、の出来、ない、村、者、は、全
 く、人、り、と、の、次、り、格、がない。

娘、達、よ、あなた、の、父、は、其、一、生、を、に、黙、々
 と、あなた、達、の、ため、に、苦、した、思、へ、は、い
 父、何、を、報、いた、か、其、因、に、愛、の、深、さ、を
 知、れ、知、る、心、に、果、け

金、銀、物、質、を、以、て、報、い、よ、と、絶、對、に、云、は、ぬ
 や、さ、い、い、父、を、思、ふ、心、さ、あ、る、な、う、を

たま、り、き、う、は、印、う、だ

各自の家庭の父母に對する 同様なる
は申してもよい。但し各主人の父母に對して
金、物を用ゆるる事甚だうなり

全軍をば私は今、只憐れに依りて、救主
イエスキリストの貴き血の故に、永遠
の命なりとの都に、旅立つた

祝せぬと云ふ、祝ひをば

一人残らず同じ處に集合ししもうね
又逢ふ日まで 神様、同居して頂く事
を祈りつけつゝ、死に到る迄、心寛
な信仰の道をばげめ！

主基督ちゃん益々神と人との愛さるる、良
き、立派な成りとなすいよ、さよなら



大岡、鍋、淵上、高木、萩安、平尾、野木
植田、越智、江田、佐藤、小田、岡田、伊藤、高
山、嶋、其の他の凡ての同信の者、兄弟
よ有難う、お世話をなされたばかりで
何のお報いさるる事なく、すみません
村井、藤田、三浦、岡部先生、其他
諸先生方、有難うございました
とうとうお大に

